

interfm

The284th Programming Deliberation Committee

第284回番組審議会 議事録

開催日 2024年12月24日（火）

出席者：山田吉彦委員長、角田陽一郎委員、長崎亘宏委員、安藤美冬委員、望月理恵委員

議題（審議番組）：『TOKYO MUSIC RADAR』

放送日時：2024年12月10日（火）21:30-22:00

DJ：mikako (Nagie Lane)

会社からの説明

国内外で注目されるジャパニーズミュージックの魅力を発信するラジオプログラムで、世界で活躍するアーティストや世界を志すアーティストへのインタビューのほか、海外でいま話題になっている”日本の音楽”について最新情報をお届けしています。

選定放送回では、東京国際ミュージック・マーケット（TIMM）にて、展示「“City pop, Tokyo - The artistic album covers” シティ・ポップを彩るジャケットアート」を監修された、音楽&旅ライター／選曲家の栗本斉さんへのインタビューの様子を放送しました。

委員からの意見・感想

審議委員A

interfm らしく、また聞きたいと思える好きな番組だった。「ジャパニーズ・ミュージック」というジャンルもまだまだ広くは知られておらず、そこに新鮮な魅力や可能性があると思うので、「日本から世界へ」発信するというコンセプトもいいですが、マーケティング的には英語をメインにしていたほうが良いのではないだろうかと思った。

また、前後の番組がエッジの効いた・攻めたコンセプトのプログラムなので、番組編成においてはややインパクトに欠ける。もっと、ある種の毒、インパクトがあったほうが良く、音楽の才能×カルチャーのうんちくというのはバランスが良いと感じるので、その点にフォーカスしても面白いのではないだろうか。

審議委員B

DJ の mikako さんのグローバルな知識と経験、アーティスト目線での話が面白く、内容もコンパクトにまとまっていて非常に良かった。声も話し方も好きで、毎日聞きたいと思えるものだった。番組冒頭からスピード感があり、弾けるような音の演出・展開もよく、良い意味で「ながら聞きできる」聞きやすい番組だと思った。

一方で、ゲストのインタビューパートの BGM が平坦で飽きてしまい、しりすぼみの印象もあった。番組タイトルもよくある響きのものなので、もっと DJ のグローバルな個性、番組の個性を出していくより良くなるのではないだろうか。

審議委員 C

総合して楽しい番組だったが、インタビューパートに関しては、紹介する楽曲と BGM のテイストを変えたほうが聴感上のキャッチがあっただろうと思った。また、音楽番組のわりに紹介される曲数も少ないので、短い尺でもトークで言及された音楽は聞かせるようにしてほしい。また、流行りを追うのではなく、番組独自の視点で「日本音楽」の魅力を発信できると、interfm の特色も出てよいのではないだろうか。

審議委員 D

JMCE の存在をはじめて知り、興味深くトークに耳を傾ける 30 分だった。ゲストの栗本さんの、専門家ならではのシティ・ポップを掘り下げた話が濃くて、もっと聴いていたいくらい面白かった。一方で、この番組の立ち位置をはっきりさせて、個性をもっと出してもいいと感じた。番組名も、ゲストも、トーク内容も振り切ったほうが、より必要な人に届くのではないかと思った。また、YouTube の動画に関しては、タイトルはゲスト名が目立ち、サムネイルを見ないと内容が分からないのものが多くあり、もったいないと感じた。

審議委員 E

非常に面白い番組で、リズムもよく最後まで楽しめた。DJ の mikako さんのトークには interfm らしさを感じた。ただ、インタビュー内のゲストのうんちくが長く、説明前のエクスキューズも多いのがもったいないと感じた。よりスムーズなインタビューに仕上げる工夫や音楽をより多く聞かせてほしい。また、もっと英語の割合は多くてもいいと思った。DJ の今後の活躍には期待をしたい。

—会社側の回答

番組に対する評価、改善・要望などの意見を真摯に受け止め、より質の高い音楽番組の制作に向け改善を図る。

以上